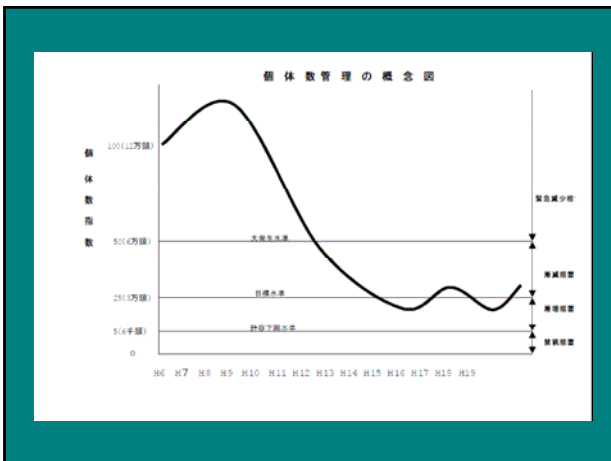
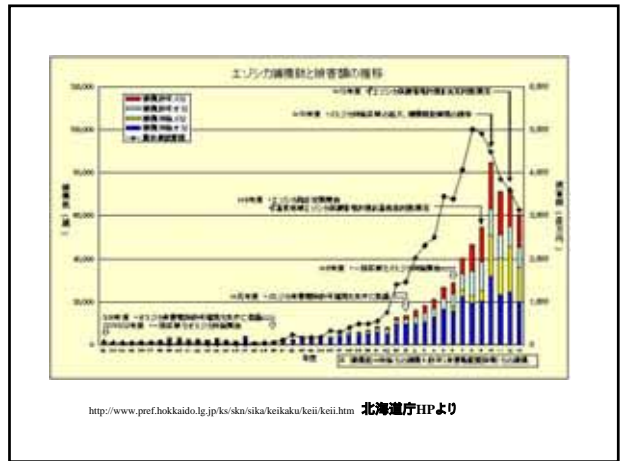
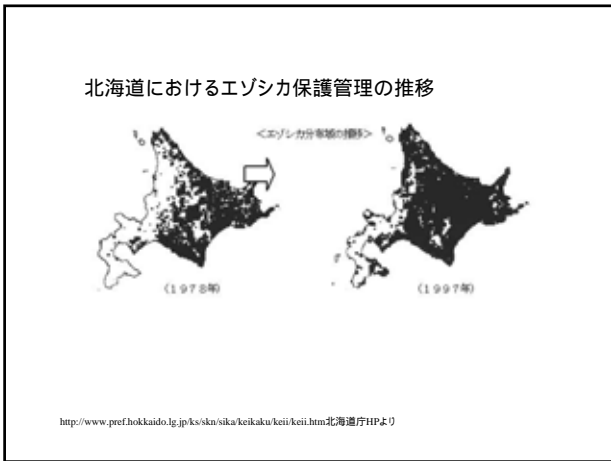
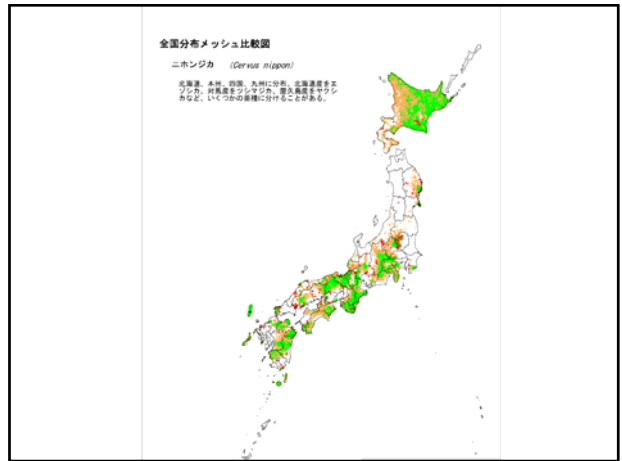


# 全国のシカ問題と 丹沢の現状

(株)野生動物保護管理事務所  
羽澄俊裕





大台ヶ原  
http://www.odaigahara.net/gaiyo/gaiyo\_02.html 環境省HPより

正木林の風景

60年代  
80年代  
現在

大台ヶ原における自然再生の目標

【保全の強化】

〈森林生態系の再生〉  
保全対策だけでは森林の健全な更新が期待できない現状について、実生の生育環境の改善など実証的手法により、積極的な森林生態系の再生を試みます。

〈利用との両立〉  
人の利用による自然環境への影響を極力低減、人為的インパクトをできる限り取り除くため、量の適正化と質の改善を通じて、新しいワイズユースの山を目指します。

基本的考え方  
大台ヶ原自然再生の推進にあたっては、下記の考え方を基本として進めます。

1. 実証的取り組みによる順応的な管理  
科学的知見・情報に基づく検証(データに基づいた予測・効果的な方法の検討)  
↓  
実験的手法による検証・モニタリングによる検証(「ニホンシカ及びヒメヤコザサの生態・生育状況に着目した実証実験」など学術通りの結果が出ているかどうかを確認)  
↓  
順応的な管理(必要に応じて修正を加えよりよい方法での実施)

2. 慎重な取り組み  
長期的視点での取り組み(森林の再生には長い年月が必要)  
慎重な実行(大台ヶ原:100年単位の視点のもと5年ごとに方針・目標)  
新しい対応のあり方  
トウモロコシ



丹沢のシカ管理が目指すべき方向

ベース

- 長年にわたるシカの基礎研究の蓄積がある。
- 総合調査が実施されたことで多面的な検討が進んだ。  
→ 生態系管理の視点で模索が始まった。  
自然再生事業が始まった。

他地域に比した利点

- 山域が小さく独立的で、シカの分布も比較的コンパクトなので、調査や各種事業の投資効果が高い。

目指すべき方向

- 生息環境管理による個体群管理というチャレンジ。
- 流域(管理ユニット)毎に、きめ細かい食物資源管理とシカ密度管理を進める。  
→ 流域単位のカルテを作って管理する

課題:いかにしてシカの密度分布を変えるか

POINT

- エサが無ければ来ない。
- 狩猟からは逃げる。
- 急なところは好きでない。
- 平でエサがあって狩猟のない場所に集まる。

解決策

- エサの分布を操作すること
- 捕獲(狩猟・駆除)の場所と時期を操作すること

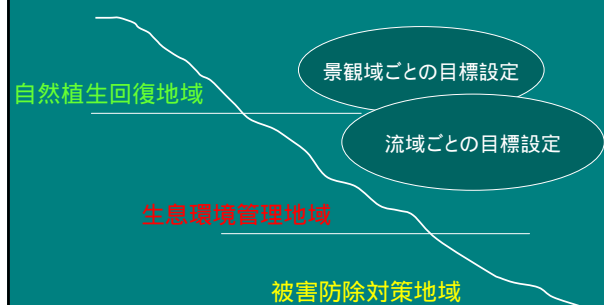


竜が馬場から見た不動ノ峰(2006年12月)



竜が馬場付近の植生保護柵内外のササの状況  
(2006年12月)

きめ細かい管理計画をたてる



課題:捕獲に関する地域区分の見直し

捕獲の場所と時期の計画的な設定

課題:人工林の状況による食物分布の見直し

計画的な伐採によって食物の分布を操作

する

計画立案、評価、そして野生動物管理事業  
の実行体制を生み出す

管理のための事業

- 森林の伐採と管理
- 植生保護柵の設置
- 捕獲
- 追い払い
- モニタリング調査
- その他

地に管理の実行  
組織を生み出す

地域の雇用創出  
地域の活性化につ  
なげる

早急に手をつけないと地域の伝統的生活技術  
が枯渇し、シカ管理もできなくなる。